

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第40回松阪市子ども・子育て会議
2. 開 催 日 時	令和8年7月30日（木） 午後6時30分～午後8時30分
3. 開 催 場 所	健康センターはるる 3階 健康増進室
4. 出席者氏名	（委 員） ◎青木信子、○岩下元紀、冨保孝之、鈴木寛子、森本悠揮、橋本昭江、中西和久、大橋 信、齋藤 都、塩谷明美、辻 純子、高橋 司、濱田壽々子、竹岡充彦、加藤健二郎、金森美菜、金児美季、稲垣恵理、中村友美 （◎会長 ○副会長） （事務局） 西浦美奈子、森本亜由美、鈴木智美、渡邊匡紀、秋田桃子、星山和弘、勝田茂樹、前川 聡、松田武己、久世哲也、脇葉 敦、山中一人、山岡 恵、佐藤巧都、北川高宏
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市健康福祉部こども局こども家庭センター子育て応援係 電 話 0598-20-8087 F A X 0598-26-0201 e-mail kod.katei.c@city.matsusaka.mie.jp

事項

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

（1）松阪市こども計画の数値の一部修正について

（2）松阪市こども計画の点検・評価について

（3）松阪市立幼稚園・保育園・認定こども園あり方基本方針について

（4）その他

4. その他

5. 閉 会

議事録

別紙「第40回松阪市子ども・子育て会議議事録」の通り

第40回松阪市子ども・子育て会議議事録

日 時：令和8年7月30日（木）18：30～20：30

場 所：健康センターはるる 3階健康増進室

出席委員：◎青木信子、○岩下元紀、富保孝之、鈴木寛子、森本悠揮、橋本昭江、中西和久、
大橋 信、齋藤 都、塩谷明美、辻 純子、高橋 司、濱田壽々子、竹岡充彦、
加藤健二郎、金森美菜、金児美季、稲垣恵理、中村友美

欠席委員：小出満由

事務局：西浦美奈子、森本亜由美、鈴木智美、渡邊匡紀、秋田桃子、星山和弘、勝田茂樹、
前川 聡、松田武己、久世哲也、脇葉 敦、山中一人、山岡 恵、佐藤巧都、北
川高宏

配布資料：

- ・第40回松阪市子ども・子育て会議事項書
- ・【資料1】松阪市こども計画修正内容 新旧対照表
- ・【資料2】松阪市こども計画の点検・評価について（説明資料）
- ・【資料3】松阪市こども計画（第3期松阪市子ども・子育て支援事業計画）
 《令和7年度実績・令和8年度進捗状況》
- ・【資料4】子ども・子育て関連施設の整備について
- ・【資料5】松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針検討部会名簿
- ・【資料6】Ⅰ【現状と課題】 Ⅱ【方向性と考え方】 Ⅲ【再編に向けた方針】
- ・【資料7】令和8年度 松阪市子ども・子育て会議委員名簿
- ・【資料8】令和8年度 松阪市子ども・子育て会議事務局名簿
- ・【資料9】松阪市子ども・子育て会議条例

〔議事録〕

1. <開会>

2. あいさつ

竹上松阪市長

青木会長

3. 議 事

（1）松阪市こども計画の数値の一部修正について

事務局

事務局より【資料1】松阪市こども計画修正内容 新旧対照表に基づき説明。

（質疑応答・意見交換）

なし

（2）松阪市こども計画の点検・評価について

事務局

事務局より、一括して説明。

【資料２】松阪市こども計画の点検・評価について（説明資料）

【資料３】松阪市こども計画（第３期松阪市子ども・子育て支援事業計画）

《令和７年度実績・令和８年度進捗状況》

（質疑応答・意見交換）

委員

資料３、１６ページ不登校・いじめ等対策事業について、こどもや保護者がつながる支援を行うとの記述があるが、具体的にどのような形で支援を行われるのか教えてほしい。

事務局

令和７年度から「児童生徒にじいろ支援計画」を策定し実施している。学校に通えないこどもには、各中学校に設置した「にじいろ教室」に支援員を配置し、こどもへの学習支援や悩み相談、保護者の相談対応を行っている。アウトリーチ型では家庭訪問を通じてこどもと保護者を支援している。

委員

次に資料３、２５ページ、小学校長期休業子どもの居場所づくり事業について、尋ねたい。

国でもこどもの居場所づくりが叫ばれていて、先日、三重県知事からも、三重県もこどもの居場所づくり支援を行っており、補助金があると説明を受けた。

三重県は、多様なこどもの居場所の創出や運営とか、夏季休業期間のこどもの居場所づくりに補助をしていくということだが、この補助制度は松阪市が取り組んでいる事業のすべてに関わっているのか、または他に、松阪市として独自の取り組みがあるのか、教えてほしい。

それと先日も、地元紙に夏休みのさんまくらぶの記事が掲載されており、ニーズ量がすごく増大していて、今年初めて受け入れが厳しかったとあった。居場所づくりは、誰かに任せるのではなくて、市民もそれを自分ごとにとらえて、考える必要があると思う。こどもの居場所づくり事業に関する制度や松阪市の現状等を教えてほしい。

事務局

松阪市の「さんまクラブ」は三重県の補助金を活用し運営している。夏休みの「さんまクラブ」で多数の待機児童が発生したとの報道を受け、市として重く受け止めている。昨年を大幅に超える申し込みが原因で、施設拡充や支援員確保に取り組んだものの対応が難航した。来年度はさらに拡充し、待機児童が出ないように進める。また、放課後子ども教室推進事業ではコーディネーターや場所の確保、参加者減少が課題となっている。小学校や地域資源を活用し、コミュニティスクールとの連携で継続可能な体制構築を目指している。

委員

実は地元小学校のコミュニティスクールの取り組みの一つとして、学校運営協議会で夏休みに図書室を開放するという取り組みを行っている。こどもたちと夏休みに数回、そのような取り組みを行う中、放課後児童クラブの人が何人か利用されており、来年も楽しみにしていると聞いている。

事業を進めていくには施設が必要と思うが、例えば、コミュニティセンター化された中で、施設をもっと有効活用しながら地域住民も一緒になって関わるといいと思うが、地域住民の立場だと、自分たちだけでは難しいところもあるので松阪市から発信すれば、地域の中で広がりが出ると思う。

委員

ファミリーサポートセンター事業をしている。

2025 年度は、大変件数が多くて 2,354 件の実績となった。

夜間の預かりで、放課後児童クラブに午後 6 時に迎えに行ったり、保育園に午後 7 時に迎えに行ったりした後の夜 8 時とか 9 時まで預かっている家庭がある。5 人程度のこどもたちが月に 5, 6 回、利用している。

この資料の中で、超延長保育というのがあり、春日保育園でその事業をされていると聞いている。夜の預かりを利用されている方は嬉野地域の方で、いろいろな条件があるとは思いますが、嬉野方面で超延長保育ができる園を作ることはできないか、検討してほしい。

また超延長保育は、早い時期から予約が必要だが、予定が早くから分かっている状況ばかりでなく、柔軟に対応してほしい。

事務局

超延長保育について検討を進めている。春日保育園で令和 3 年 10 月から、通常の午後 6 時までの保育や 1 時間の延長保育に加え、午後 9 時までの保育サービスを開始している。事前登録後に必要時の申し込みを行う形式で運用し、初年度の利用者は 0 件だったが、令和 4 年は登録 5 名・利用 4 名、令和 5 年は登録 5 名・利用 1 名、令和 6 年は登録 8 名・利用 3 名と推移。令和 7 年度は登録・利用ともに 0 件となった。少数ながらもニーズはあったため、原因を検証すべく保育園保護者千人以上を対象にアンケートを実施し、結果を基に今後の対応を検討する。

会長

こども誰でも通園制度で、今年度から本格実施ということで、現在の松阪市の実施状況等を教えてほしい。

事務局

松阪市では、県内に先駆け令和 6 年 7 月から「こども誰でも通園制度」に取り組み、令和 8 年度から全国的に本格実施している。制度は事前登録と利用申し込みの 2 段階手続きが必要であり、令和 7 年度の登録児童数は 102 名、利用者数は 63 名だった。今年度は私立保育園を 1 園加え、登録児童数は 104 名、利用者数は 44 名となっている。利用者アンケートでは満足が 91%、やや満足が 9%という結果で、家族以外にこどもを預けることへの心理的抵抗や登録のみで未利用のケースも見られる。市は安全性や安心感を伝えるためホームページで利用者の声を公開し、不安解消を図るとともに、利用者数増加と実施場所の環境整備を進めている。

委員

昨年の会議で、こどもの声を聴くことについて、考えているという報告があったが、現在の状況を教えてほしい。

事務局

今年度、松阪駅西開発に係るワークショップが近々、開催の予定があることから、それに向けて、松阪駅に将来、新しくできる施設の公共部分に、どのようなものがあるといいかというアンケートを教育委員会の協力を得て、小学校5・6年生、中学生、高校生を対象に実施した。現在、アンケートの集計中で本日の会議には間に合わなかった。今後、機会を通じて報告する。

委員

こども基本法ができて、こどもの声を反映するとうたわれているので、その声を、しっかり受けとめて、反映してほしい。

委員

こども計画施策分野2の中部台運動公園整備事業について尋ねる。

こどもを連れて中部台運動公園を利用することがあるが、芝生や蟻地獄があったり、アスレチックがあったりして、本当に良い公園である。

最近、アスレチックが大変寂しくなってきた、私や同年代の人に話を聞くと、津市にある中勢グリーンパークに、多く行っていると聞く。

中部台運動公園の魅力をもう少し、増やしてもいいのかなと感じたので、意見として発言した。

事務局

貴重な意見として担当課に伝える。

委員

幼保小の架け橋期のプログラムについて尋ねる。

架け橋期という言葉が自分のこどもが通っているころには、馴染みのない言葉であった。

最近ではとてもよく聞く言葉で、その取り組み状況を教えてほしい。

事務局

架け橋期のプログラムは、幼児期の非認知能力（やる気、誠実さ、自制心、協調性など）を育て、小学校教育との円滑な接続を図るためのものである。幼児期と小学校教育には目標や方法、生活の仕方に違いがあり、格差が生じることがあるため、双方の教育者が互いの内容を理解し、連携することが重要である。市教育委員会は10年以上前から三重大と協力し、一部校区でプログラムを作成してきた。昨年度からモデル校を選定し、幼児期と小学校教育者が交流しながら新たなプログラムを構築し、今後広く展開することを目指している。

会長

せっかくの機会なので、架け橋期プログラムの小学校での状況を聞かせてほしい。

委員

昨年度は幼稚園の園長も兼ねていたので、幼稚園と小学校の架け橋期プログラムに参加した。

幼稚園教育と小学校教育は指導要領である。保育指針的な部分は厚生労働省から示されるという行政的な部分もあるが、こどもたちが、保育園から小学校、または幼稚園から小学校そして中学校へ進んでいくところを、教職員が大事なこどもたちをしっかりとつなぎながら、教育していきたいと考えている。

会長

両方の立場の経験から非常に、重要な話と思う。

委員

私立保育園においては架け橋期プロジェクトについては、情報共有しており研修にも参加している。

会長

架け橋期プログラムは、重要な取り組みとして全国的に注目されているものであり、松阪市においても今後継続的に推進していくべきである。

事務局

事務局より、説明。

【資料4】子ども・子育て関連施設の整備について

（質疑応答・意見交換）

なし

（3）松阪市立幼稚園・保育園・認定こども園あり方基本方針について

事務局

事務局より、【資料5】松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針検討部会名簿、

【資料6】Ⅰ【現状と課題】Ⅱ【方向性と考え方】Ⅲ【再編に向けた方針】に基づき説明。

（質疑応答・意見交換）

委員

今回、事務局からの説明を聞き、専門部会では、丁寧な議論を行っていると感じた。閉園基準等を議論していくにあたり、人数だけではなく園の実情や地理的な面での実情も考慮しながら、柔軟にこどもの学びや育ちを第一に考えられるような基本方針に向かっていくと良いと思う。

会長

人数だけで基準を考えるのは難しい、人数だけではなく、園の内容やこどもの様子も含

めながら、地域にも納得してもらえるよう丁寧な議論する必要があると思う。

これから具体的に検討を進めていく中で、今後、松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針検討部会の議論の内容を子ども・子育て会議の中で、報告したいと考えている。

(4) その他

事務局

なし

4. その他

事務局

次回子ども・子育て会議は11月19日(木)18時30分 健康センターはるる 3階
健康増進室

5・閉会

会長より終わりの挨拶

(午後8時30分終了)